

イチゴセル苗の低温暗黒処理法

福島県農業試験場いわき支場・平成10年度秋冬作試験成績概要

1 部門名 野菜－イチゴ－育苗 03-07-06000000

2 要 旨

セル苗を利用した低温暗黒処理法における苗の処理効率の向上、及びセル苗への赤色光照射による苗の消耗軽減について検討した。

(1) 果菜類用セルトレイ(穴径48mm×深さ75mm)と、3.5号黒ポリポットを比較した。その結果、1コンテナ当りの処理株数は70～80株となり、ポット苗の約4倍となった。

(2) セル苗を利用した場合の年内収量は株当たり144g、ポット苗は152gであった。

(3) セル苗の低温暗黒処理中に赤色光を照射することで、黄化葉数が1～2枚減少し、年内収量が株当たりで約20～50g増加した。この場合、赤色光の明るさは、苗の葉先部分で100ルクス程度を確保する。また、電照を行う場合は経済性を考慮する必要がある(株当たり経費は、配線、電球、赤色セロファン等の設備費が約25円、電気代10円程度)。